障害福祉分野のロボット等導入支援事業における導入事例

社会福祉法人射水福祉会
いみず苑「ひびき愛」

１．機器名
眠りＳＣＡＮ

２．ロボット機器導入前の課題
入所利用者の重度・高齢化に伴い、次のような課題が生じていた。
①夜間帯の状態変化確認やトイレ誘導のための巡回回数が増加していたこと。
②居室内での転倒によるケガの発生リスクが高まっていたこと。
③睡眠リズムが乱れがちな利用者の睡眠状況を把握する必要があったこと。

３．ロボット機器導入の推進方法
入所利用者５０名のうち、特に、①バイタルの把握が必要、②睡眠リズムが乱れがち、または、把握が難しい、③離床の際の転倒等ケガに至るリスクが高い、利用者１９名について、眠りスキャンのセンサーをベッドのマットレスや布団の下に設置する。
男女各宿直室に設置してあるパソコン２台に眠りスキャンのアプリケーションをインストールの上、調整する。

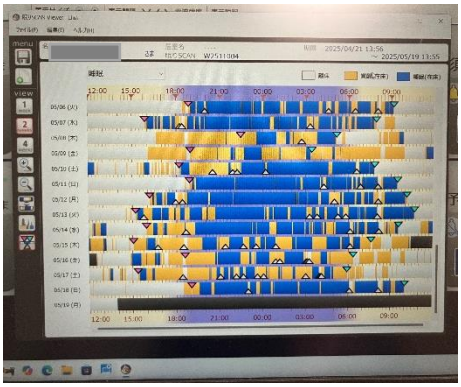
４．ロボット機器導入後の成果
パソコン画面上で睡眠状況を把握できるため、見回り巡回の回数(トイレ誘導含む)を減らすことができ、また、バイタル異常時、離床時等において、アラームの鳴動設定が可能であるため、問題発生時に迅速に対応することができるなど、リスクの軽減と業務効率化、職員の負担軽減を図ることができた。

５．今後の課題
睡眠状況については、医務室の看護師の端末でも共有することができ、睡眠リズム改善のために、必要に応じて医療的なケアに繋げていきたい。また、夜間の睡眠リズムについても年単位の記録が蓄積されるため、夜間の睡眠リズムと排泄リズムとの関係性の分析により、適切な排泄支援の実施にも繋げていきたい。

６．写真

①ベッドマットレス下に設置

②ＰＣ上にて各利用者を把握


③利用者ごとの日々の睡眠状況